

高円宮妃杯 JFA 第 29 回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会 参加報告書

北海道 2 級審判員 秋山心音

参加日時 2024 年 11 月 26 日(火)
2024 年 12 月 7 日(土)~12 月 8 日(日)
場所 さくら市総合公園さくらスタジアム(栃木県さくら市)
参加者 地域推薦 2 級女子審判員 14 名
INS 9 名

11 月 26 日(火) 事前 WEB 研修会

- ◎自己紹介
- ◎大会要項・競技運営上の注意事項の確認(INS 山岸氏)
- ◎大会での審判員の役割
 - ・フェアであること = 「美しい試合」にとって重要な基盤
 - ・サッカーにおける最高の試合 = 審判がほとんど登場することのない試合
 - ・選手の安心、安全、快適さのためにあまりにアグレッシブであったり、危険な行為を行う競技者にはしっかりと対応する
- ◎今後の流れ

12 月 7 日(土) 1 回戦

朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス vs ANCLAS ノーヴァ (さくら市総合公園さくらスタジアム)

11:00 Kick Off

結果：14-0(3-0)(11-0)

主審：秋山心音 副審：宮本陸斗、加瀬田彩華 第 4 審判：新井恵子

担当 INS：井脇真理子氏

<自分の振り返り>

ワンサイドなゲームだったこともあり、全体を通して落ち着いて取り組むことができた。タッチジャッジの点では最終的に正しく示せたため概ね良かったが、細かいところで副審との差し違えが二度ほど起こってしまった。ボールがラインから出る前に副審の様子からワンタッチが見えていない可能性があると感じたら、少し早めに強くシグナルすることで不要な差し違えを防ぐことが出来ると感じた。また 2 枚目の飛び出しがあり、ゴール前のオフサイドをキャンセルした場面では、選手の中で数名、納得のいっていない様子が見受けられた。その直後のアウトオブプレーになったタイミングで、端的に全体へ 2 枚目の飛び出しがあったことを伝えたほうが良かったと感じた。今後そのような場面での、細かい対応スキルも身に付けていきたい。

<INSからのアドバイス>

・よく走れており、ストライドが大きいいため身体を大きく見せることができている。しかし、走り出しの一步目から大きいため何かあった時に遅れてしまう可能性がある。最初の3m程は細かく走り出すとより良くなる。

・ファウルの判定に迷い、笛をくわえたが吹かなかった場面があった。自分の中ではちょっとした心の迷いから出た行動だが、自分で思っている以上に主審の動きは目立つし、みんな注目している。何か起こりそうだから笛を準備しておくのではなく、起こってからくわえること。

・試合終了のホイッスル後、中央に整列する際に主審自らボールを拾いに行ったが、もし選手たちが整列しているところで何か起きたら対応することができない。そのため、副審にお願いすることも頭に入れておくこと。

12月8日(日) 2回戦

JFA アカデミー福島 vs 朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス(さくら市総合公園さくらスタジアム)

11:00 Kick Off

結果：1-1(0-0)(1-1) PK(3-1)

主審：秋山心音 副審：河野由依、勝又彩優希 第4審判：菅又英明

担当INS：浅井昭子氏

<自分の振り返り>

試合のレベルが高く、ファウルの見極めと見極めるためのポジショニングや走力が求められる試合だったと感じた。一度オフサイドをキャンセルした場面があったが、GKはオフサイドだと思い間接フリーキックのセットを行った。相手選手がプレスに行くことなく何事もないように試合が進んでしまったが、後から副審と話した際に手でボールを保持した後、足でボールを転がし再度手でボールを停止させていたことから、相手チームの間接フリーキックとして対処すべきだった。主審の私が気づき対応する場面であったが、審判団の誰かが気づき協力が大切であると再認識した。また、このような場面でインプレー中にどのようにコミュニケーションを取るべきなのか今後の課題にしていきたい。

この試合の特に前半では、ハイボールの競り合いの場面が多かった。しっかりと良い位置・角度から争点を見ることはできたが、細かいファウルの見極めが難しいと感じた。押す・体重をかけて寄りかかる・引っ張るなど、互いにボールに向かって競り合う中でのことなのか、競る前から起こっていることなのか、ボールが来る前の位置関係などよく見て判断することが大切であり、課題の一つにしていきたい。

<INSからのアドバイス>

・前半、GKのボール保持が長かったため声をかけていたが、後半も保持時間が変わらず続いていた。ハーフタイムに何かできることがあったのではないかと考える必要がある。

・試合全体を通して、後半も落ちることなくよく動いていた。しかし方向転換をする際、またボールから逃げる際に必要以上に膨らんで走っていたため、「臍でボールを見ること」を意識するとよい。

今大会を通して

北海道を出て、全国大会に参加するのは今回で二度目の経験でした。初めての道外での活動から約1年半、この期間思うように審判活動が出来なかった私にとって今回の大会参加は、非常に大きな決断でした。まずはそんな私を北海道代表として推薦して下さい、このような貴重な経験をさせていただいたこと、心より感謝申し上げます。

試合を通して成長できたこと、今後特に課題にしていきたいことは多くありますが、今大会参加にあたって、試合以外の場面で学べたことや経験できてよかったこと、今後大切にしていきたいことも見つけることが出来ました。いつも様々な面で、どこか自分の中の準備不足が試合に出てくるが多々ありましたが、今回は体調面・精神面・用具の面など色々な角度から入念に準備を行い、万全の状態ですべての試合とも迎えることが出来ました。今回見つかった課題の一つとして、「対応」の部分が大切だと感じました。2試合とも起こった事象だと、“オフサイドをキャンセルした後の対応”です。キャンセルした後に選手達に「続けて！」と声をかけるのか、キャンセルしたことがしっかりと副審に伝わっているのかなど、自分が行動したことに満足するだけではなく、その後選手の様子はどうなのか、審判団の協力はできているのかと、後のことまで考えてアクションを起こせることを課題にして取り組んでいきたいと感じました。

今後も今までのように活動していくことは難しいかと思いますが、関わっていく一試合一試合大切に向き合って、より良い審判員を目指していきたいと思っています。そして常に今ある環境、いつも暖かく支えてくださる方々に感謝し、日頃から過ごしていきたいと思っています。

最後になりましたが、改めて今回このような貴重な経験をさせて下さった北海道サッカー協会の皆様、大会を開催するにあたってご尽力いただいた栃木県サッカー協会の皆様、そして日頃より私の活動を支えて下さっているすべての方々に深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

